

協働による花と歴史と安らぎの郷づくり ～街道が蘇れば人も地域も元気になる～

1 社会資本の概要

橿原地域内では、国の天然記念物ゲンジボタルが生息しており、木屋川と稲見川が合流するところに位置するため鑑賞の期間が長く、鑑賞用のほたる舟の船着き場も設けられています。この地は、室町時代、大内氏が朝鮮貿易に用いた肥中街道と江戸時代、萩と下関を結んだ赤間関街道北道筋（現国道435号）が交差する交通の要衝地でありました。防長の三大



「道の駅」 蛸街道西ノ市

豪族豊田氏の館跡や、大内氏の重臣朝倉（右田）氏の館跡、城址や縁の神社、寺等があります。朝倉氏が建立した妙栄寺には雪舟や細川幽斎が訪れています。加えて、近くには年間80万人が来場する「道の駅」 蛸街道西ノ市があり、情報発信拠点、地域づくり活動の推進拠点としての機能も担っております。



妙栄寺

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

当該地域は、高齢化率50%を超える中山間地です。休耕田が耕作放棄により荒廃地化するなど、景観が著しく損なわれました。加えて猪、鹿、猿による農作物への被害も多発し、農業者は耕作意欲を失いつつありました。一方、地域には貴重な歴史や遺跡があるにも拘わらず活用されないままの状態にあり、その存在さえも分からなくなりつつありました。このような状況下で「地域はそこに住む者自らが創っていかない限り決してよくなることはない（宮本常一）」を活動理念として、交流人口とU、Iター

ンの増加を目標に、地域課題解決型組織を発足し「肥中街道の再生と活用」、「道沿いの景観向上」、「郷土史講座の開催」、「協働による地域貢献」といった4つの事業に取組みました。倒木や汚染で通行不能であった歴史街道を再生し毎年梨の花ウオーク歴史コースとして活用。案内柱や史跡説明板の設置。国道、県道沿いの荒廃地に年間1万本超の花植え。妙栄寺での郷土史講座。中学生や大学生への歴史学習や地域研修の指導、歴史探訪や地域づくり研修の受入れを実施しました。



肥中街道の再生



道路沿いの景観向上



山口県下関市
 榎原ゆうあい会 / 山口県・下関市

3 活動の成果や波及効果等

国道や県道沿いの荒廃地を活用した当会の活動が手本となって近隣に「緑花活動地区」が4地区生まれました。「道の駅」との連携によって「肥中街道」の知名度アップや、身近な地域資源を活かした取組みが評価され、国土交通省の夢街道ルネサンス認定に寄与しました。県内外から歴史探訪や地域づくり研修視察者等が増え、体験発表の機会を得ました。活動が認知されると先方から支援や協賛の話があり、活動の継続に繋がっています。

活動を通じて会員が、郷土史の知識を習得し、案内人や講師に育ち、県民活動のアドバイザーも誕生しました。これからも常に活動理念を認識し、持続可能な活動ができるように努め、さらに地域資源を活かした生涯学習の拠点整備を進め、交流人口の拡大を目指します。



妙栄寺での郷土史講座

喜びの声



花植えを支えてきた仲間たち

受賞者

榎原ゆうあい会 代表 貴志 昇

コメント

まるで「蝸牛が富士山に登る」ような活動をしっかり認め、褒めて頂き感動しています。多くの協働して下さった方々に感謝し、郷土の温もりを繋げます。

活動内容

街道交流、花いっぱい、郷土史講座、学校支援など協働による地域貢献

活動の経緯

- 平成19年 会発足。第1回歴史講座開催。
- 平成20年 街道再生、梨の花ウオーク歴史コースに活用。国土交通省夢街道ルネサンス認定寄与。
- 平成22年 山口国体受入れ準備 景観整備。
- 平成23年 山口国体を花でおもてなし。県花いっぱい運動 奨励賞受賞。
- 平成26年 緑花活動モデル地区指定。
- 平成27年 下関市第6回景観賞受賞。

手づくり郷土賞について

公開審査会について

講評

大賞部門

一般部門

資料集

所在地

山口県下関市豊田町榎原

活動主体及び連絡先

榎原ゆうあい会
 事務局長 柴田 俊彦

対象となる社会資本

国道435号、県道下関長門線
 ※管理者：山口県、下関市

